



晩秋の沢旅を満喫

南アルプス 遠山川・池口沢

浅井

【日時】 2006年11月3日～11月5日

【メンバー】田村(L)、浅井、田辺(利)

11月の三連休を使って今シーズン最後の泊まりの沢に行くことにした。田村さんの発案により、中ア南部の安平路山周辺の沢も候補にあがっていたが、直前に田辺さんが加わり、最終的には車で行ける沢ということで、南ア深南部の池口沢に決まった。池口沢は「関東周辺の沢」に載っており、また他会の記録でもよく見かけるわりとメジャーな沢だが、過去にトマで行った記録はないようだ。他会の記録では11月のこの時期に行ったものもあり、晩秋のこの時期に行ける数少ない大きな沢の候補として私も前から狙っていた。沢だけでなく南ア深南部の秘峰池口岳に立てるのも魅力である。

11月3日(快晴)

前夜、飯田まで中央道をひた走り、遠山郷の上村で仮眠。かつては秘境のイメージが強かった遠山郷も道路が整備された今は東京から意外と近い。国道から池口部落へと舗装道路を進み、池口川の右岸沿いに続いている道を車で奥まで入るが、途中から道幅が極端に狭まり、路肩にガードレールもない恐ろしく危険な道になったので、あわてて引き返す。結局池口川にかかる橋の先まで戻り、そこの広場に車を置いた。

準備をして8:45、出発。しばらくは左岸沿いの道を進む。途中で牛舎などもあり、のどかな光景が広がる。踏み跡がなくなったあたりから沢に下りる。まもなく大きな堰堤にぶつかりそれを越えればしばらくはゴーロ歩きが続く。気温は今の時期にしては高め、水もそれ程冷たくない。田村さんは先月の奥利根の時と同じく地下足袋にフェルトわらじという古典的なスタイルだが(見るからに寒そう!)、それでも冷たくはないという。う～ん、すごい人だ!

しばらくは周囲の紅葉をめでながらのんびり進む。やがて最初のゴルジュにぶつかり、先には釜を持った4m滝が現れる。これを左から巻くとその先にはきれいな小滝が連なっていた。その後はまたゴーロとなり、左右に大きな崩壊地が目立つようになった。地形図の1048mの先の右岸には一段と大きな崩壊地が現れ圧倒された。これも南ア特有の光景なのかもしれないが、やはりちょっと興をそがれる。

崩壊地を過ぎると次のゴルジュが現れた。2m程の小滝の前の最狭部が深い淵になっており、胸の上まで浸からないと突破は無理そう。さすがに今の時期はそれは出来ないの、左から巻くことにした。出だしは緩やかだが、滝の巻きの所が傾斜があるので、一応ロープをつけて行くことにした。私がリードしたが、滝の所はやはり傾斜があり悪いので、途中から空身で登った。ロープを固定して、セカンドの田辺さんが登る前にザックを荷揚げしたが、その時ザックに浮石が当たったのか、落石が田辺さんの頭を直撃した。一瞬ひやとしたが、幸いヘルメットの真上に当たったので、事無きを得た。南アは浮石が多いので登る時は

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

気をつけていたが、ここで注意を怠ったことを反省する。無事三人が登り終わった所で今度は10m程の懸垂。この懸垂も出だしの足場が悪くやてこずった。夏ならば水線通しに簡単に突破できる所だが、水に浸かれないばかりにこんなに苦勞するとは…。

やがてまたゴルジュが現れる。釜を持ったナメ状の小滝の連曝でなかなかきれいだ。ここは左から岩棚を這うように小さく巻く。どうやらここは「関東周辺の沢」に第2ゴルジュと記されている所ようだ。

右岸に30m程の滝が見える枝沢を見送ると、またゴルジュ。その中には大岩によって二条に分かれた3m滝があり、水流の右側から大岩を攀じ登って越えた。ここは「関東周辺の沢」に第3ゴルジュと記されている所ようだ。その記述では泳いで取り付いても直登は無理なので右から巻くとあるが、泳ぐ箇所はないし、滝もすんなり登れたので、おそらく20年以上も前の踏査時とは溪相が変わっているのだろうと思われた。この第3ゴルジュはなおも続き、釜を持った小滝の先にやはり釜を持った4m程の立派な滝が現れた。これは出だしは空身で水流の右側を巻き気味に越えた。ここはなかなか変化のあるゴルジュで楽しめた。

その後はまたきれいなナメ小滝の連曝が現れ、しばらくゴーロが続き、二つの3m滝を越えてなおも進むと、今日の幕場予定地の二俣に到着(15:50)。ここは開けた感じになっており、まずまずのテン場だ。南アらしく焚き木もふんだんにある。さっそく焚き木を大量に集めて今シーズン最後の焚火を盛大に起こし、冷えた体を温めた。田辺さんも田村さんも日頃の激務がたり、夕食の前からうとうとモードに入っていたが、酒も回り我々だけの静かな至福の時を過ごせた。

★第3ゴルジュ 3m滝を登る



11月4日(快晴)

5時過ぎ起床。まだ真っ暗だが、田村さんが早めに起きて既に火を起こしてくれていた。7:30、出発。この二俣からは右に入る。本流は左の岩小屋沢だが、登山体系も「関東周辺の沢」も右の湯沢が紹介されているのは、たぶん右の方が遡行価値が高いからであろう。確かに出合から3m程のきれいなナメ滝が連なり、いい感じだ。やがて大岩に挟まれた2段20mの大滝にぶつかる。これはハングしており登れないので、右から高巻く。

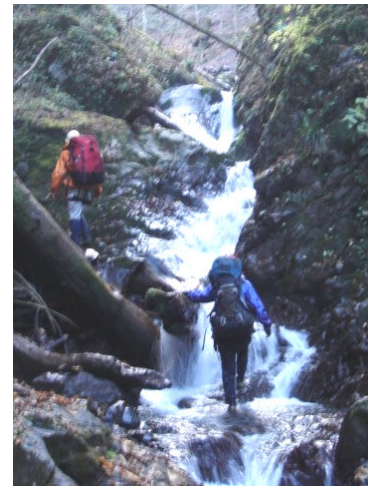
いくつかの小滝を越えるとゴルジュとなり、3m、4m、2条6mと変化のある滝が続く。4m滝は水流右の倒木を利用して越えた。2条6mは右がきれいなナメになっており、なかなか見応えがあった。

左岸にきれいなナメ滝のある枝沢を見送ると、またゴルジュ。ゴルジュの中の小滝を越えると最後に4mのヒョングリ滝。これは左から巻いた。

その後は小滝やナメが連なるきれいな溪相がしばらく続いた。その先はゴーロとなり水流も細くなってくる。遠くには青空の下、奥秩父の鶏冠尾根のようなギザギザの稜線が見えて

きた。少し寒気が入っているのか雲の流れが速い。標高が急激に上がってきたので体が冷えてくる。

上部には水が少ない丹沢の滝のような3m~5m程の滝がいくつか出てきたが、いずれも問題なく越える。またゴーロとなり沢も荒れ気味になってくると、右岸にガレが目立つようになる。もう水もチョロチョロだ。このまま沢を詰めると源頭は大ガレになっていて危険とあるので、1000m付近から早めに左岸に逃げ、右側の尾根を目指して登ることにした(10:40)。「関東周辺の沢」では反対の左側の尾根に逃げているが、我々は計画段階では右側の尾根から鶏冠山まで行き、そこから梶谷川を下降するというプランだったのだ。しかし結果的にはこの右側の尾根に逃げたのは大成功。右側の尾根に至る斜面の傾斜が緩くガレもほとんどない。おまけに獣道が縦横に走っており、まるで登山道のように歩きやすい。こんなに明瞭な獣道を見るのは初めてだ！



途中、鹿の楽園のような気持ちのいい台地で大休止。ここで下山ルートについて三人で再検討する。協議の結果、ここまでで既に予定よりもだいぶ時間をくってしまったので、下山時間が読めない梶谷川下降はやめて、オーソドックスな池口岳西尾根を下りることにした。日の短い今の時期、より安全策をとったということだが、何より池口沢が十分過ぎるほど充実していたので、三人とももう満足していたのだ！

さて、下山を尾根に変更したので、池口岳の二つのピーク(南峰と北峰)をじっくり目指すことになった。もう一頑張り急斜面をあえぎながら登って、12:00、池口岳から鶏冠山に延びる稜線に出た。ここは地形図には登山道はないが、予想通りしっかりした踏み跡と赤布がついている。さらに尾根を30分程東に登って、12:30、南峰の肩に到着。ここには光岳から尾根沿いに縦走してきたという10名程の中老年の大パーティが休んでいた。こんな所で大パーティに遭遇するとは予想だにしないので驚く。聞くと彼らは今日は鶏冠山の手前の笹平で泊まり、明日鶏冠尾根を下りるという。一服した後、ほぼ彼らと一緒に南峰に向かう。13:00、南峰(2375m)に立つ。山頂は意外と広がった。

★池口岳南峰に立つ

彼らと別れて今度は北峰を目指す。途中の道には所々雪が残っていた。おそらく我々が東京を出る前夜に降ったものだろう。西面の急斜面は崩壊が進んでおり、大ガレが目立つ。14:40、北峰(2392m)着。かくして秘峰池口岳のピークを二つとも踏めたので大満足！ 遠く東の方角には光岳が望まれ、「光」という名の由来となった二つの白く輝く「光岩」がよく見えた。光岳には昔行ったことがあるが、「光岩」を見るのは初めてだ。この神秘的な岩は深南部の山からでないとは方角的に見ることが出来ないのだ。これも思いがけないプレゼントだった。





さて北峰からは池口岳西尾根を下りる。今日は尾根の途中で泊まるつもりだ。この登山道は地形図には記されていないが、よく整備されておりとても歩きやすい。樹林の切れ目からは、聖岳を始め遠く赤石～塩見岳まで望まれた。

少し下ると加加森山への分岐。ここには光岳から縦走してきたという5人程の中高年パーティが休んでいた。彼らはここから池口岳をピストンして、我々と同じく池口岳西尾根を下るといふ。彼らからこの先のザラ薙平に絶好の幕場があるとの情報を得た。

2156mと1983mの小ピークを越えるとなだらかな尾根が広がり、1971mとの鞍部のザラ薙平に到着(15:45)。なるほどここは平らな広場になっており、テントも5・6張は張れそうな願ってもない幕場だ。少し奥のステキな場所にテントを張り、さっそく宴会モード。焚火こそ出来なかったが、その夜も静かな山で至福の時を過ごせた。なおこの幕場は15分程下った所に水場もあるようだ(我々は沢から水を担ぎ上げて来たので水場には行かなかったが)。

11月5日(快晴)

今日も朝から穏やかな青空が広がっている。7:00、出発。いくつかの小ピークを越えながら、しばらくは快適な稜線散歩が続く。1858mの先には黒薙と呼ばれる大ガレがあり、池口沢の方に落ちているのが見下ろされた。これは初日に見た大崩壊地と思われる。

1837mの小ピークを越えると急傾斜の下りとなったが、再び緩やかな下りが続く。この尾根は全体的に距離が長い分、傾斜は緩やかだ。下部では登山道の脇の地面にきのこがたくさん生えており、すかさず田村さんが採集する(きのこの名前は分からなかったが)。なおものんびり下り、10:00、池口岳登山口着。ここには手書きの「池口岳登山ガイド図」が掲げられていた。ここから先は林道となり、桃源郷のようなのどかな池口部落を通過して、10:30、車に戻った。

帰りは巨大な温泉施設「かぐらの湯」と地元のおいしい蕎麦屋に寄り、帰京した。

池口沢は予想以上に変化のある面白い沢だった。強行すれば1泊2日でも行けるようだが、やはりこのような沢は、2泊で沢+山頂+尾根とじっくり楽しむのが合っている。

三日間とも絶好の好天に恵まれ、静かで楽しい晩秋の沢旅が満喫できた。

【行程】

- 11/3 池口部落(8:45)～第1 ゴルジュ(10:45)～第3 ゴルジュ(14:20)～二俣(15:50)
- 11/4 出発(7:30)～1000m付近(10:40)～鶏冠山に至る稜線(12:00)～池口岳南峰(13:00)～池口岳北峰(14:40)～ザラ薙平(15:45)
- 11/5 出発(7:00)～池口岳登山口(10:00)～池口部落(10:30)

【地形図】 伊那和田、池口岳、光岳、上町

池口沢 概略図と遡行図

